

「北極圏旅行記 2017 夏 (13)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/29 ロフォーテンへのフェリー～

フェリー乗船の簡単な手続きが終わったが、肝心のフェリーがまだ来ていない。少し時間があったので、そのへんを歩いてみた。



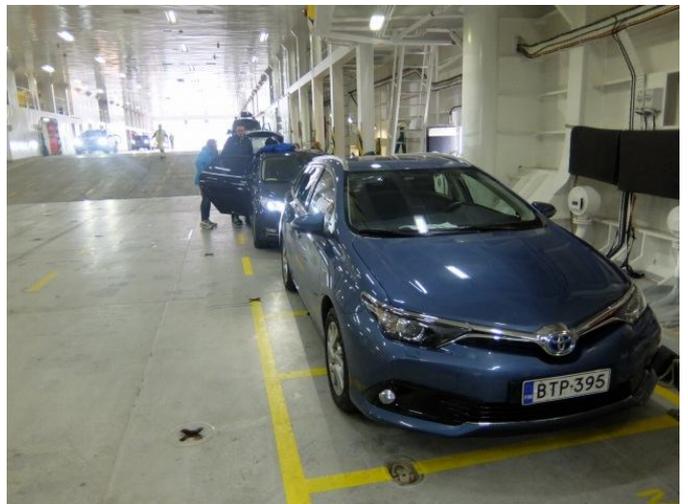
ここにもララローセン(ヤナギラン)が咲いている。ヤナギランは、アカバナ科の植物で、ツキミソウと同じ仲間だ。ツキミソウとちがうのは、綿毛のような種子を作ること。これで遠くまで種子を飛ばし、北極圏の大地で大繁栄をとげたのだろう。とにかくどこにもある。



出港 30 分前に、フェリーが到着した。目的地のモスケネスから来て、折り返す船である。このフェリーは前後に車の搭載口がついていて、船内でUターンすることなく、到着港で車を出すことができる。思っていたよりも小さなフェリーだ。



モスケネスからの車と人が降り終わって、いよいよ乗船だ。海外で車をフェリーに載せるのは初めてだ。誘導に従って、自動車デッキに入る。



車は一番前に区画に収まった。その後特に指示はなく、乗客はゾロゾロと上の客室に移ってゆく。日本のフェリーでは、航行中に自動車デッキには鍵がかけられてしまうが、ここでは自由に行ける。キャンピングカーなどは、そのまま車に留まる人もいる。なんとものんきなフェリーである。



客室には横須賀線のグリーン車のようなリクライニングシートが並び、前方も見渡せて快適である。上にはシャワー付きの個室もあり、追加料金で使えるようだ。夜行便の乗船時には便利だろう。



客室後方には売店があり、飲み物やホットドッグなどを買うことができる。それにしても、ノルウェーは物価が高い。消費税が25%ということもあるが、ハンバーガーが1個90クローネ（約1200円）もする。ちょっとした軽食にも2000円近くかかる。



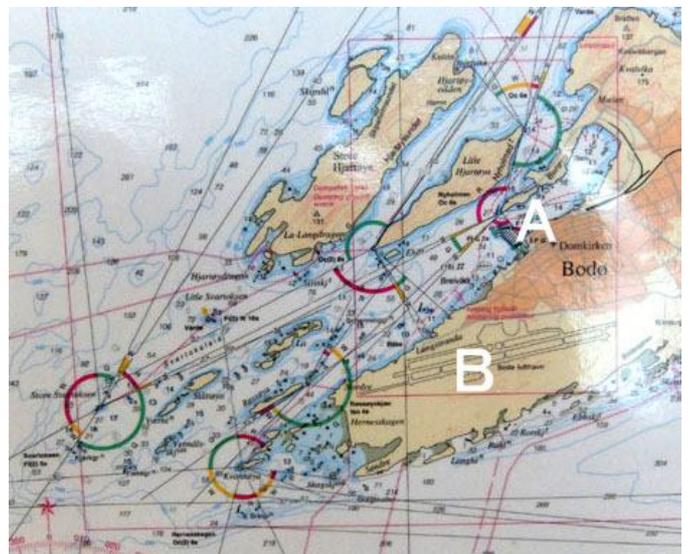
展望デッキもある。ここは涼しくて、景色も良いので人気がある。しかしほとんど中国からの団体の人で一杯だった。ノルウェーの国旗は、日本の東海汽船のロゴとよく似ている。後部デッキに国旗が掲げられていると、何か東海汽船で大島か八丈島に来たような錯覚に陥った。左は、利島



（としま）に行った時に撮影した、東海汽船の煙突についてのロゴマーク。ノルウェーの船に見える。



定刻の午前11時に出港。ボーデの街ともお別れだ。ボーデには、ノルウェー軍の空軍基地がある。空港は民間旅客機と共用していて、オスロからの直行便もある。空港前にはレンタカーもある。



図はボーデ港付近の海図である。Aがフェリー乗り場、Bが空軍基地（空港）である。岩礁や浅瀬が多く、航海には熟練を要する海域だ。



出港するとすぐに右に転舵、外洋に向かう。ノルウェーの防波堤灯台は、カラフルでかわいらしい。